

平成30年産 紀南のみかん産地情報

2018/07/09

1. 4月から開花期にかけて、気温が平年に比べ高く推移し、満開日は早生で4月29日と、前年より11日程度、平年より9日程度早くなった。

満開後の気温はほぼ平年並みとなったものの、曇雨天が続き第一次生理落果が多くなったが、心配された第二次生理落果は少なくなり、現在は順調に生育している。



2. 本年の早生みかんは着果が多い傾向にあり、現在高品質果実生産のため、摘果やマルチ被覆、フィガロンの散布を呼びかけている。

7月5日時点の果実肥大は、早生みかんで果径は31.0mm（前年比95.0%、平年比105.8%）と良好である。

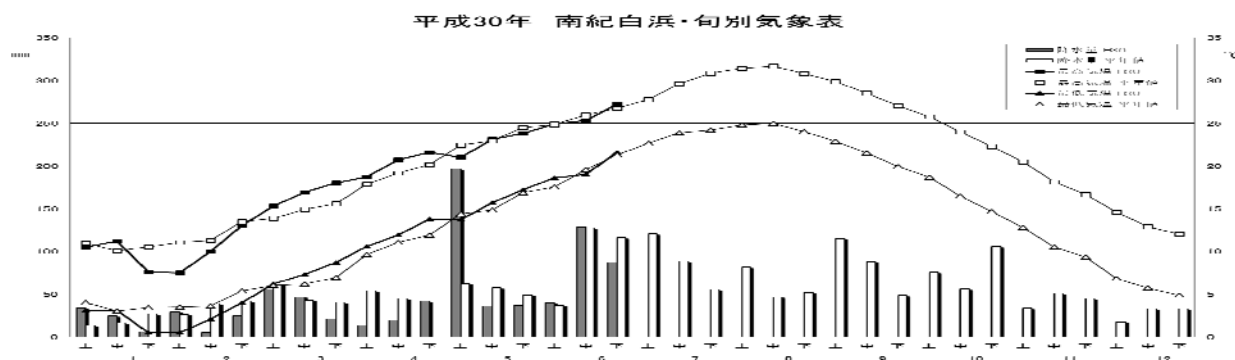
3. 今年産の生産予想量（7月9日時点）

品目	面積(ha)	生産予想量(t)	前年比	平年比
極早生	195.8	3,123	100.6%	89.7%
早生	439.0	6,048	104.7%	91.6%
合計(普通含む)	638.2	9,196	103.3%	90.9%

生産量は今後の気象等により変動することがある。

4. 病害虫については、開花時にカメムシの飛来が見られたが、現在は小康状態にある。また、一部園地でカミキリムシの発生が見られる。

5. 果実生育期の気温は、ほぼ平年並みで推移している。また降水量は4月下旬から5月上旬までは平年を上回る降雨があり、それ以降はほぼ平年並みの降雨があった。



南紀白浜気象データより（平年は白浜気象データ）